

中嶋氏が西日本政経懇話会で講演 あくまで冷静な観察を

## あくまで冷静な観察を

中嶋氏が西日本政経懇話会で講演

## 『中国の新体制と最近の国際情勢』

体制と最近の国際情勢』と題して講演した。同氏は『日本と中国は異母兄弟のような関係にあり、一度仲がこじれると、他人より関係回復はむずかしい。中国に対しては、トライは対応が必要だろう』

リーダーシップ内部の安定④開かれた中国が第一歩を記した、の四点である。しかし、依然として中国共産党のワク組みの中で、政治は動いており、権力闘争はまだまだある。結論は早々と下すべきではないか。



講演する中嶋嶺雄氏

などと約一時間にわたって語った。講演要旨、次の通り。

ない、と考える。

一、先の第五期全国人民代表大会で、中国の新体制がはっきりしたと一般的には言われている。その特徴は①党政分離②革命第二世代の登壇による上層部の若返り③

一、中国の現在のGNP(国民総生産)は一人当たり二百三十四億円で日本の三十分の一。二十年后には千億を目標と言われているが、それさえ困難なのではないか。三十年間、権力闘争に

明け暮れた中国はいま、政治、社会体制を堅持しながら、資本主義的システムを取り入れ経済を活発化させることを考えているようだが、果たしてそれができるのか。かなりの混乱をきたすのではないか。

一、中国には二つの顔がある。マスコミで知り得る観光的(表)な顔と知り得ない断教的(裏)な顔だ。私たちが知らない部分が多く、ふとところが深い国だと言える。私たちはあくまで中国を深く分析し、二つの顔を統一して見なければならぬだろう。ドライで冷静な対応が必要だということだ。たとえば単に友好ムードにあおられたプラント輸出などは、慎みたい。先進的な技術を日本から導入した宝山製鉄所は現状にそぐわず、お金はかりかかつて結局、現在のところ失敗に終わっている。

西日本政経懇話会筑豊地区十月例会は、二十七日午後六時半から飯塚市西町の文化センターで開き、東京外語大教授で中国問題研究家の中嶋嶺雄氏が『中国の

代

は